

幼少期について

- 母親が自分を妊娠したときの家族事情 - 両親はどこに住んでいたか、そのときの両親の年齢、子どもは何人いたか。
- 母親のお腹にいたときや自分が生まれたときのことを知っているか。（両親から聞いたことはあるか。）
- 生まれてから3歳になるまで自分の面倒を見てくれたのは誰か。
- 生まれた地域での伝統的な子育て方法は何か。
- 両親が自分にしてくれたことで一番良かったことは何か。
- 子どものころの親または親代わりの養育者との生活の中で、最も安心できたことやなくさめられたのはどんなときか。
- 記憶にある中で、生まれて初めての大切な人との別れはどのようなものだったか。それは辛いことだったか、取るに足らないことだったか
- それにどう反応したか。何を考えたか。どんな気持ちだったか。どんなことをしたか。
- その別れにどう対処しようとしたか。何を考えたか。どんな気持ちだったか。どんなことをしたか。（親／親代わりの養育者に対する憎しみはあったか、「心が凍った」か、忘れようとして／無視していつもどおりに過ごしたか、悲しかったか。）
- 施設で生活している子どもたちの中に、自分がしたような反応を見せた子はいたか。それは誰か。

職業について

- なぜこの仕事に就いたのか。
- プロとして最も重視している基本的価値は何か。
- 子どもの養育に最も大切なことは何か。

現在の仕事について

- 現在施設で暮らしている子どもたちはどこから来たのか。
- 子どもたちが抱えている問題は何か。
- 毎日の仕事の中で、最もやりがいのあること、最も難しいことは何か。
- 子どもたちが抱えている問題に、自分の過去が重なることはあるか。その場合、その経験を、子どもたちと接するときに役立てているか。
- プロの養育者として成長するために自分が取り組むべきこととして最重視していることは何か。
- それをサポートするために、リーダー（上司）にできることは何か。

自分の考えを5分程度にまとめて、皆に発表します（参加者の人数が多い場合は2分程度）。